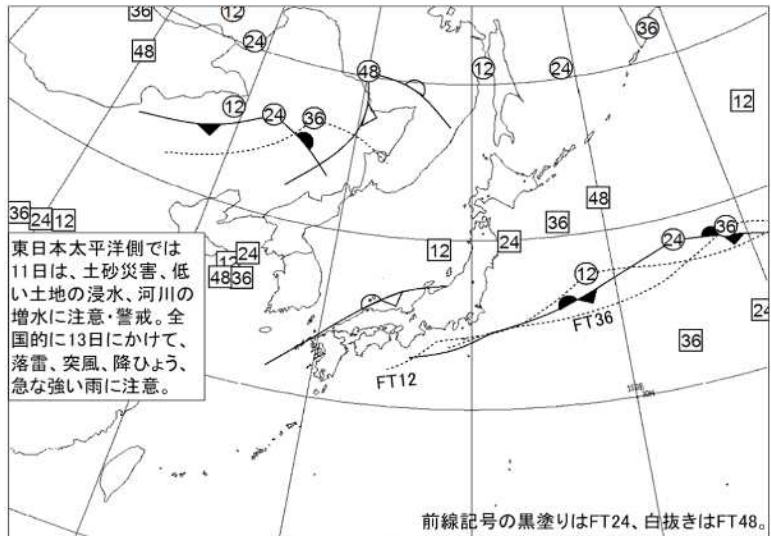


1. 実況上の着目点

① 本州の南岸から日本の東にかけての前線は、北側に上空に連なる幅の広い温度集中帯をもち、その南端に解析。500hPa 5820m付近の日本海のトラフ東側の雲域と前線雲バンドが一体化しながら降水域を北日本に広げている。トラフ東側では前線は北上傾向。前線に近い紀伊半島沖では非常に激しい雨を解析し、雷を検知。前線の北側では下層寒気の中で、前線面を滑昇する気流による層状雲の降水となっている所が多いが、前線に近い太平洋沿岸では対流雲の発達や広がり留意。



主要じょう乱解説図

② 500hPa 5940m以上の上層の太平洋高気

圧は勢力を強めており、小笠原近海～日本の南は対流雲が少ない。南西諸島もその圏内だが、地上では①の前線の西端から南西諸島にかけて気圧の谷で、下層暖湿気の収束域となっている。スケールは小さいが対流雲が発達し、激しい雨や非常に激しい雨を解析し、雷を検知している所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、1項①のトラフが抜ける11日夜以降はゆっくり南下。日本の東から日本のはるか東にかけて勢力を強める高気圧の影響で上層との対応が悪くなり13日にかけて次第に不明瞭化する。ただし、高気圧の南側を流入してくる湿った空気の影響が続き、東日本太平洋側を中心に13日にかけて降水が続く所がある。一方、13日にかけてさらに勢力を強める1項②の太平洋高気圧や中国東北区に南下してくる寒冷渦の影響で500hPa 5880m付近の強風軸が明瞭化し、13日朝には850hPa相当温位336K付近に新たに前線が顕在化し、九州から北陸地方にかけての日本海側に停滞する。これらの前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、局地的に雷を伴って激しい雨の降る所がある。これまでの大雨により通常よりも少しの雨量で土砂災害の危険度が高まりやすい所があることにも留意。東日本太平洋側では11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。西日本から東日本では13日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

② 北海道地方では、気圧の谷の影響で12日にかけて風が強まる所がある。強風、高波に注意。また、12日には高気圧の西側となることやアムール川中流から下流で発達する低気圧の影響で下層に暖湿気が流入するようになり、寒気を伴う上層トラフが通過するのに伴い、大気の状態が不安定となり、対流雲の発達する所がある。12日から13日にかけて落雷、突風、降ひょうに注意。

③ 南西諸島では、1項②の気圧の谷が12日にかけて次第に解消し、比較的安定した晴天となる所が多くなるが、13日には上層寒冷低気圧が日本の南を西進してくるのに伴い、13日後半には大気の状態が再び不安定になる。南西諸島では13日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島 100mm。②波浪(明日まで)：北海道 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。